

## 窓辺

毛利 博

### 避けては通れない道

40年以上前、私が医師になつた頃は、60歳はお年寄りという印象でした。今では60代は働き盛り、70代はまだまだ元気で、平均寿命は大幅に伸びました。医療の進歩の恩恵を受けているのは間違いありません。医師は80歳までは現役という時代です。

命には限りがあることは自明の理ですが、悟りの境地に達した人がどれほどいるのでしょうか。個人的には、まだまだその境地にはありません。いつまでも元気で生きていたいと思うの

は自然の摂理です。しかし、齢を重ねて体の自由が利かなくなり、病で苦しい生活をしている人が数多くいるのも事実です。

医師は患者さんの様々な人生の縮図を見てきました。命に関わる病名を告知されても、泰然自若とした方もいれば、狼狽する方もいます。人は生まれた時から、一つの方向に向かっていくことにはあらがうことができません。「まだ自分は大丈夫」という気持ちがあるから、生きていけるのだと思います。

病気になる、状況は一変します。精神的な支えが必要になります。欧米諸国では、終末期には牧師が患者さんの心のケアをしています。医療の限界となつたときに、医師だけでなく、患者さんの心のケアができる人材の育成が大きな課題となります。

私たち団塊の世代は、人生の最終コーナーを回りました。「終活」という言葉が当たり前になりました。信頼できる人に巡り合い、気持ちを正直に吐露でき、「わが人生悔いなし」と言えるようになりたいものです。

（県病院協会 会長）  
藤枝市病院事業管理者